秋期火災予防週間

11月26日～12月2日

なれた火に新たな注意

不始末を真赤な舌で火が笑う

今年も例年のとおり、十一月二十六日から十二月二日まで、全国一斉に秋の火災予防運動が実施されます。

今年の予防運動では、くらしの中の防火再点検が掲げてありますが、これからは暖房器具を使う機会が多くなり、したがって、火災発生件数も大変多くなるのが毎年の例です。石油ストーブの取扱いやコタツの火の始末、就寝前の火の元の点検等には、一層の注意をお願い致します。

なお、本村における火災原因は、煙突の不備によるものが多くなっていますので、ふだんの点検を忘れないようにしましょう。

また、家屋の冬囲いには、万一に備えて二ヶ所以上の避難口をあけておくとゝもに、老人や、子供の就寝場所にも注意をねがいます。

防火注意事項

◇火気使用器具の安全な取扱いをおぼえ、使用後は必らず点検する。

◇就寝前や、外出の際は、必らず火の元を点検する。

◇たばこの投げすてと寝たばこは絶対にしない。

◇石油ストーブの給油や、移動は完全に火を消してからする。

◇避難口は、常に二か所以上を確保しておく。

◇常にバケツ一杯の水を備えておくこと。

◆消火器の不正販売にご注意◆

最近、新潟市内で、消火器の不正販売が数件報告されています。

販売の手口は、「あなたの建物には、県が消火器を設置しなければならないと指定している。」とか、「消火器を設置した旨、消防署に届けるから印鑑を貸してくれ。」などといって、定価一本三千七百円のものを、二本セットで九千円で販売しているとのことです。

このような手口に乗ることなく、消火器は信用ある業者から、国家検定のマークのある、できるだけ薬剤量の多いものを買うようにしましょう。

児童手当の手続を忘れていませんか？

◎三人目の対象児童が生れたら〝すぐ〟に手続を！

現在、十八才未満の児童二人以上いて、その次の子が生れた場合は、役場へ児童手当認定請求の手続をしてください。

これは自からの申出がないと児童手当は支給されません。また申出がおくれますと、認定請求書提出月の翌月から支給することになりますので、早めにねがいます。

◎転入転出のときにも必らず手続を！

児童手当は、各住所地の市町村役場で支給しますので、せっかく受給権があっても手続をしないと、支給されませんので、転入転出時には手続をしてください。

※諸届の用紙は、役場にありますから印鑑だけお持ちください。

小学校 百年の天寿を迎える

11月に記念式典や記念行事を計画

小学校は、明治五年（一八七二年）に学制が公布されてから今年でちょうど、一〇〇年になります。

今日の健全な秩序を確立し経済、文化の発展をなした根底には、国民全般の教育の普及、充実によるところが大きいといえます。

本村の四小学校では、この一〇〇年の天寿を祝って、記念式典や記念行事が計画されています。

横越小学校は、明治五年十一月、承休学舎として創立、木津小学校も同年に、木津円通寺禅堂を借館して、開設されました。

翌六年には、小杉小学校が大淵小学校の分教場として、沢海小学校は、大栄寺を借館して開設されました。

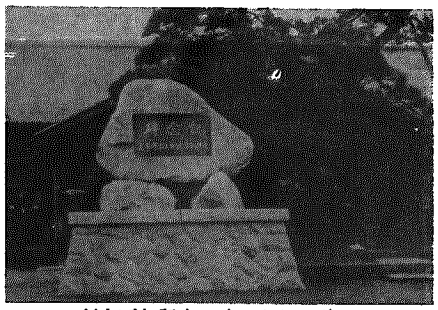
その後、幾たびかの学制の改定が行われ、校名もそのたびに変遷してきました。昭和二十二年の新教育法によりまの小学校となったのです。

この一〇〇年間、それぞれの学校から大勢の学友を送り出しました。また、学校を中心に地域文化を築いてきました。

すりへった床、黒ずんだキズだらけの柱、緑色のコケはえた瓦が一〇〇年の歴史を刻みこんでいるようです。

しかしながら、この一〇〇年の天寿を全うすると同時に昭和五十年には、学校統合で発展的にその名を消し去ることになります。

そして今、統合小学校の整地工事がはじめられ、新しい小学校の歴史がはじまろうとしています。



創立百年記念で建てられた碑（木津小学校）

各小学校の記念式典の期日

○小杉小学校
記念式典　10日
文化祭　12日

○木津小学校
記念式典　16日
文化祭　12日

○横越小学校
記念式典　23日
文化祭　3日

○沢海小学校
記念式典　48年3月

優秀農家の横顔 ②

昭和四十六年度横越村の優秀農家に選ばれた三人の中では、一番年輩格ではあるが、まだまだ働きざかりである。

浅見さんが酪農に手を染めたのは、今から二十三年前の昭和二十四年からで、その頃横越村へ水田酪農として初めて乳牛が飼われた時代でもある。

その後、時代に即応しながら徐々に伸し、昭和三十八年には十頭、昭和四十六年には十五頭とし、その足どりは堅実そのもので、村でも数少ない酪農専業を築き上げました。

部落は蓮山で、家族は七人農業従事は、奥さんと長男の三人で当っている。

経営規模は水田五七a、畑八〇a（うち飼料畑七五a）乳牛一四頭（うち経産牛一〇頭）である。経営形態から見た場合、複合経営ではあるが、酪農部門の農業所得が九〇%近くあるので実質的には酪農専業とみなされる。

経営の特徴としては、一頭当り産乳量が六、三〇〇kgと高く村の平均を大巾に超えており、一頭当り所得も12万円と高い。またこれら優秀な牛は、ほとんど自家生産の自給方式をとっていることである。

幸い、後継者である長男も酪農には熱心であり、今後は更に経営規模の拡大に大きな夢を抱いている。

酪農経営

浅見元三郎氏（51才）

経営収支実績

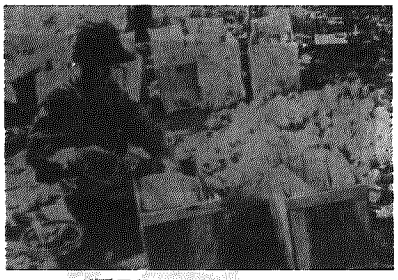
部門	粗収入	経費	主な内訳					所得	所得率	別日所得 部門1日仮り部労当
			減価償却	土地改良区	公租	賃借料				
	千円	千円	%	%	%	%		千円	%	円
水稲	348	211	40.6	19.7	9.6	9.5		137	39	4,567
ソ	50	—	—	—	—	—		50	—	—
酪農	3,115	1,996	飼料費 71.7	減価償却 16.2	光熱費 1.4	肥料費 1.0		1,119	36	2,710

ふるさとの味「おけさ柿」

栽培18年の佐藤さん

〝味覚の秋〟特産の「20世紀」、「新興」に代表される本村の梨産地の中にあって、県の目玉商品として、佐渡を中心に、新津など県内各地で生産されて、従来からの「八珍柿」を栽培している農家があります。

このおけさ柿は、県が大だい的に売り出すために、「八珍柿」を名づけたもので県下で一千百ヘクタール栽培（果樹園芸連調）されています。



（選果箱づめ中のおけさ柿）

村で栽培出荷されているのは大字横越、佐藤啓太郎（69才）さんで20アールに、約70本植え十八年目、この秋二五〇ケース余の出荷を終えました。

「今年の収穫は10月10日から始めたが、台風20号の被害もあり、例年より少し果実の大きさも悪かった」と、佐藤さんは語っています。

おけさ柿は、これからの季節の果物で、特に風呂上りの「こたつ」に入って賞味しては最高のもので、種がなく、クセのない甘い水分、歯ざわりのよさ、トロケルような風味など、八ツの珍味から付けられたものなのか、ともかくすてがたい「ふるさと」の味ではないでしょうか。

ますが、この生産高は18万6千ケース（一ケース20K入箱）を見込まれているもの。